

1. 調査目的等

中学校全学年・義務教育学校(7～9年)の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

2. 学校ごとの指標

令和6年度の全国調査の標準化得点国語100、数学100 以上、学力検査45以上になる。

3. 指標にむけての取組

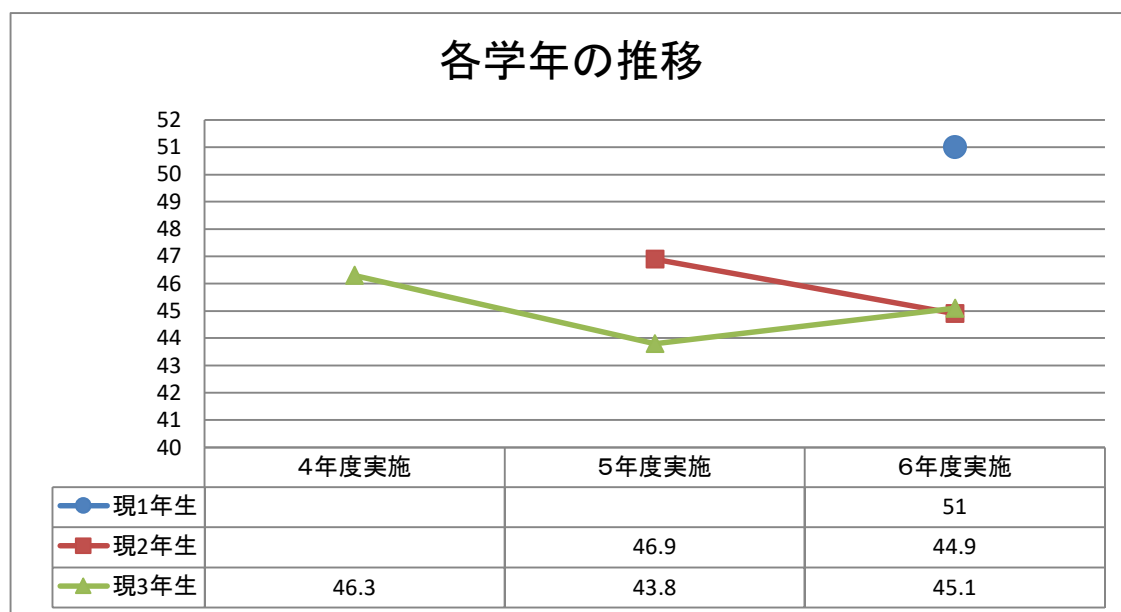
学力向上プランに基づいて、確かな知識をもとに主体的な学びを創り出す生徒を育成するために、学習専門委員による学習コンクール(生徒会・鍛ほめ)、放課後補充学習、習熟度別の学習を含む嘉穂中ステップアップタイム(KST)、数学科での習熟度別少人数学習に取り組んだ。

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
本校(A)	50.4	48.5	47.4	47	47
嘉麻市(B)	48.6	47.1	46.0	45.5	45.8
(A)－(B)	1.8	1.4	1.4	1.5	1.2
標準偏差値との差 (A)－(50)	0.4	-1.5	-2.6	-3	-3

各学年の推移



5. 各学校における分析

- ・国語科では、説明的文章、文学的文章、詩のいずれも読解問題の正答率が低く、また記述問題に課題がある。
- ・社会科では、国同士の位置関係の定着が低く、資料の読み取りに課題がある。
- ・数学科では、基礎的な計算問題や説明を伴う記述問題に課題がある。
- ・理科では、計算を含む問題や思考を伴う問題の正答率が低く、基礎基本の定着が課題である。
- ・外国語科では、1年生より文字による定着が難しく、単語やイディオムの未定着が条件作文等に影響しているため、基礎単語等の定着が課題である。
- ・放課後補充学習では、基礎・基本の徹底を行い、家庭学習の定着の一助となった。

6. 各学校における今後の取組

- ・学力向上委員会や教科部会等で各種テストの分析と改善策を出し合い、カリキュラムマネジメントを通して、知識・技能の定着とそれらを活用した思考力・判断力・表現力の育成に努める。
- ・小集団への学習支援としては、英語や数学でのITや補充学習、生徒の実態に応じた習熟度による学習支援を実施する。
- ・本年度も昨年度同様、学習コンクール、嘉穂中学校ステップアップタイム(KST)、家庭学習の充実に向けた支援と指導、英検の校内実施、朝と帰りのホームルーム学習を継続して行う。
- ・全生徒を対象とした教育相談を実施し、各種アンケートの結果から困り感を示した生徒への早期支援、早期介入として小集団学習や個別の支援を充実させる。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、年3回(4回)実施する標準学力分析検査ごとに結果を分析し、学力向上の取組を改善していくことを通して、効果的な学力向上の取組を構築していくよう指導する。また、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆単元や学習のまとまりを単位とした短いスパンでの学習定着状況の把握と個に応じた指導の工夫を推奨する。そのために、単元に小テストや単元テストを位置付け、トリプル80を視点から評価を各学校において確実に実施するとともに、それらをもとに取組の検証改善を図る校内学力検証委員会の充実について指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した家庭学習を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。